

**CASBEE京都-新築(2015年版)**  
**(仮称)京都-南区上鳥羽ホテル**

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
<b>1.1 騒音</b>										
<b>1.2 遮音</b>										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
<b>1.3 吸音</b>										
<b>2 温熱環境</b>										
<b>2.1 室温制御</b>										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
<b>2.2 湿度制御</b>										
<b>2.3 空調方式</b>										
<b>3 光・視環境</b>										
<b>3.1 屋光利用</b>										
1 屋光率 ●自然 A(全国版準用) (共用部)3.1%、(住居部)1.75%										
2 方位別開口										
3 屋光利用設備 ●自然 B(推奨内容)										
<b>3.2 グレア対策</b>										
1 屋光制御 ●自然 B(推奨内容)										
<b>3.3 照度</b>										
<b>3.4 照明制御</b>										
<b>4 空気質環境</b>										
<b>4.1 発生源対策</b>										
1 化学汚染物質 F☆☆☆☆建材の使用										
2 アスベスト対策										
<b>4.2 換気</b>										
1 換気量										
2 自然換気性能 ●自然 A(全国版準用) (住居部)0.0672>0.0667(1/15)										
3 取り入れ外気への配慮										
<b>4.3 運用管理</b>										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画 ●大切 D(独自基準)										
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
1 広さ感・景観 ●とも C(独自加点) (住居部)居室天井高:2.45m+窓等適切に設置										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画 ●自然 D(独自基準)										
<b>1.3 維持管理</b>										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
3 衛生管理業務										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
<b>2.1 耐震・免震</b>										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
1 躯体材料の耐用年数 ●大切 A(全国版準用)										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 (共用部)(住居部)タイル貼(40年)										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		節水型器具の採用、系統を区分、受水槽2基	3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備			4.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備			2.0	0.20	-	-		
<b>3 対応性・更新性</b>										
3.1 空間のゆとり										
1	1	階高のゆとり			-	-	-	-	2.2	0.50
2	2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	(住居部)【客室】壁長さ比率:0.19	-	-	-	1.0	0.60
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
1	1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	1.00	-	-	
2	2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>										
1 生物環境の保全と創出										
			●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮										
			○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
			●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上										
			●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										
<b>LR1 エネルギー</b>										
1 建物外皮の熱負荷抑制										
						3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用										
			●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化										
			●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.96	3.0	0.50	-	-	3.0
						3.0	1.00	-	-	
						-	-	-	-	
4 効率的運用										
						3.0	0.20	-	-	3.0
						3.0	1.00	-	-	
						3.0	0.50	-	-	
						3.0	0.50	-	-	
						3.0	-	-	-	
						3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>										
1 水資源保護										
1.1 節水										
						3.4	0.20	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										
						3.0	0.60	-	-	
			●自然	A(全国版準用)	(共用部)(住居部)節水コマ・省水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
						3.0	0.70	-	-	
						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減										
			●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用										
						3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用										
			●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用										
			●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材										
			●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み										
			●大切	A(全国版準用)	(共用部)(住居部)LGS・GL工法	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用										
						3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避										
						3.0	0.70	-	-	
						-	-	-	-	
						3.0	0.50	-	-	
						3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>										
1 地球温暖化への配慮										
						3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮										
2.1 大気汚染防止										
						3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善										
			●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制										
						2.3	0.25	-	-	
						-	-	-	-	
						3.0	0.33	-	-	
						3.0	0.33	-	-	
						1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										
						3.0	0.40	-	-	
						3.0	1.00	-	-	
						-	-	-	-	
						-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制										
						3.0	0.40	-	-	
						3.0	0.70	-	-	
						-	-	-	-	
						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制										
						4.4	0.20	-	-	
						5.0	0.70	-	-	
			●とも	B(推奨内容)	光害対策ガイドライン項目の過半を満たす	3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる